

第2節 生態系・鳥類

現在の三番瀬は、埋立てによる海域面積の減少と河川とのつながりの弱まり、後背湿地の消失、地盤高の低下等による浅海域化、周辺部の都市化等、多くの急激な変化により干潟的環境の多くが失われました。このため、干潟環境に依存して生息する水鳥類、魚類、底生生物や水生植物の中には姿を消したものがあります。また、種類数の減少以外にも、個体数の減少又は一部の増加傾向等、生息状況が大きく変わったものもあり、生態系も変化しています。

それでもなお、三番瀬には多様な自然環境が存在し、水鳥をはじめとする多くの生物が生息しています。

このことから、多様な環境を保全するとともに、健全で豊かな生態系の回復や、干潟に特有な生物種の復活を図り、生物多様性を高め、様々な生物種が安定して生息できるようにすることが重要です。

そのため、現在残る干潟環境を保全し、さらに多様な環境の復元を目指すとともに、行徳湿地や河川等と三番瀬の連続したつながりの回復を目指します。

三 番 瀬 の 生 物



図2 - 2 - 1 ニホンドロソコエビ



図2 - 2 - 2 アシナガゴカイ



図2 - 2 - 3 アサリ



図2 - 2 - 4 イシガニ

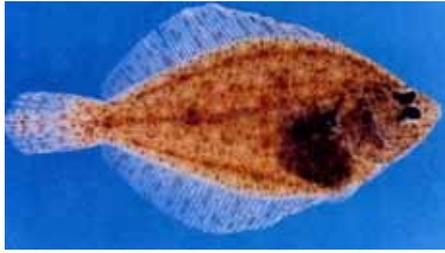


図 2 - 2 - 5 イシガレイ



図 2 - 2 - 6 マハゼ



図 2 - 2 - 7 アナアオサ



図 2 - 2 - 8 スサビノリ



図 2 - 2 - 9 ハマシギ



図 2 - 2 - 10 コアジサシ
(田久保晴孝氏提供)



図 2 - 2 - 11 スズガモ



図 2 - 2 - 12 シロチドリ